



# 関西いのちの電話



「千貫松島」(平成19年度山陰海岸写真コンクール入賞作品)鳥取県岩美町での撮影



## 引き潮いくりの礁

関西いのちの電話 事務局長 碓 英一

本年初めに要請をお受けし事務局長を務めております碓英一と申します。すでに8ヶ月も経過しており、大変遅いご挨拶で失礼いたします。

「関西いのちの電話」45年の歴史の中でたくさんの方がバトンタッチをして繋がれてこられたように、つぎの人へバトンを渡すのに、お役に立てたらというのが正直な思いです。

ロートルのショートトリップで思うように動けておらず、皆様にお手数をとらせ、ご迷惑をお掛けしているのではと思っております。

一方でこのことは私の人生にとっては、潜らなければならない関門ではないかとも感じております。

いま中秋を過ぎ暮れにかかるかという老年の人生のまよひのとき、これまでの自分の生きて来た道を振り返るとき。そこにこのような大きな難関が現れ、これまでの生き方、考え方、人との関係の在り方を振り返り、これまでいかに多くの人に守られ、保護され、生かされてきたか、自分がいかに自分勝手な生き方をしてきたか、それを黙って見守ってくれた人がいかにたくさんおられたか、反省や感謝などの気持ちが次々とわきあがってきます。

それらを、身を以てありありと感じ思いをはせ、自分をきちんとする場所へ置かれているのではないかという感じがあります。

引き潮の礁の大き秋の暮 蜻蛉

春夏の勢いの盛んな季節は、自分を囲んでくれていた人たちは、海の上に少しだけ頭を出しているようにしか感じないで、自分のことだけで精一杯だったものが、秋の季節にしかもその終わり頃になり潮が引くと、大きな礁となり立ち現われて来ました。自分でなく自分を囲んでいた人たちのことが引き潮により大きい礁のように目の前に立ち上がってきます。

「関西いのちの電話」に関わる方々もそれぞれの人生の四季におられますが、ことのほか秋の季節におられる方が多いと思います。黄葉紅葉で「山装う」秋の季節は、春とは違った奥深い美しさを秘めた時期でもあります。また木の実を宿している季節でもあります。木の実を降らし、やがてそれを育てるべく葉を落とすと、あっけらかんと素となった樹木に、さんさんと冬の太陽が陽を注いでくれるでしょう。その陽はやがて新しい芽を生み育ててくれることでしょう。

※礁いくり：海水面に見え隠れする石。隠れ岩のこと。

関西いのちの電話 相談電話 (24時間365日) ☎06-6309-1121  
自殺予防いのちの電話 毎月10日 午前8:00～翌日午前8:00 ☎0120-783-556

関西いのちの電話 第23回チャリティーコンサート

## 天満敦子ヴァイオリンコンサート

開催日：2018年10月26日(金) 会場：いずみホール

10月26日大阪市の「いずみホール」にて、第23回チャリティーコンサート「天満敦子ヴァイオリンコンサート」が開催されました。天満敦子さんをお迎えするのは今回で3回目。再演を待ち望む声が多かっただけに、会場は540人の観客で埋め尽くされ大盛況となりました。

最初に奏でられたのはバッハの「アルマンド」。天満さんがゆったりとした表情で登場され、弓を動かした瞬間、その強くて深い音色に圧倒された方も多いのではないでしょうか。第一部では、「トロイメライ」、「タイスの瞑想曲」、「ホーム・スイート・ホーム」など、なじみ深い名曲が続きました。ヴァイオリンとピアノだけとは思えない程の豊かな音色に、うっとりしたり切なさが溢れたり心揺さぶられる中、天満さんの代名詞とも言われる「望郷のバラード」が奏でられました。

第二部の始まりは、「五木の子守唄」。第一部とは打って変わり、何とも言えない懐かしさと郷愁で一杯になりました。「からたちの花」や「宵待ち草」などの昔の曲が心に響き、



サインの風景



「これほど名曲だったとは」と改めて感じられた方も多いと思います。最後の「ジュピター」では、あまりの神々しさに涙が溢れ、「どうかこのまま途切れないで」と願うほどでした。

アンコールに応じて奏でられたのは、「月の砂漠」。舞台のライトをすべて消して、暗闇の中から聞こえてくる音色が心に沁み込み、涙腺は完全に崩壊しました。「知床旅情」が始まると、会場からどこからともなく口ずさむ声が広がり、最後には会場全体が一つになっていました。

合間のトークや最後のご挨拶で、辛い思いを抱えている友人がいたことで、「いのちの電話」の活動を身近に感じるようになったことや、「ジュピター」の音色で大病から回復された方の話が紹介されました。辛くしんどい思いをしている時、耳から入ってくる声や音色で、癒され救われることがある。「いのちの電話」の重要性を広くご紹介いただいた、貴重な機会となりました。

24時間・365日「眠らぬダイヤル」として相談活動をおこなっています。  
皆さまのご支援が、電話をつなぎ「いのち」をつなげます。いのちの電話の活動を支えてください。

## 歳末募金をお願いします

お振込先※社会福祉法人へのご寄付は税制上優遇されます。

口座名義：社会福祉法人関西いのちの電話      口座番号：ゆうちょ銀行 00990-3-68480  
：三井住友銀行 十三支店(普) 998829

## エルダーものがたり X (1966年～1969年)

私は鳥取で楽しくやっていた。ずっといるつもりだった。しかしある日、私の教団の本部から、「沖縄に任務が変わって欲しい」との手紙が来た。「私は鳥取で満足です」と断った。「是非考えてください」とまた来た。また断った。今度は、「一寸東京に来てほしい」との電話があった。これは、ただ事ではないと思って、夜行列車の「出雲号」に乗った。

事務所に入ったら、親しかった教団の総会議長の 大村先生が待って居られた。「戦時中、戦後、日本キリスト教団は沖縄の仲間を無視して来た。そこで沖縄の人々は自力で沖縄キリスト教団を作った。同じ歴史と信仰のキリストの教会だから一緒になったらいいと思ってチームを送ったが、アプローチは良くなかった。失敗した。今度は沖縄から私達に“代表宣教師となる人を三年間貸して欲しい”との依頼が来ている。これに是非応えたい。沖縄教団と協力しているアメリカの三教会の代表宣教師として、是非エルダーさんに行ってほしい」と言われた。大事な役目だと思って、引き受けることにした。

しばらく居た、ある日の牧師会で私は「沖縄教団と日本教団の将来の関係をどう思いますか」と訊いた。若い牧師たちは「いずれ一緒になるでしょう」と簡単に答えた。しかし中年以上の牧師は「とんでもない、絶対あってはならない」と興奮気味で言った。私は長年の差別と戦後の無視された事の傷の深さを痛感した。

宣教師たちの活動を見ることは面白かった。しかし、お金の管理と米国教会に手紙を書くだけの仕事は面白くなかった。他に何か出来ることはないかと思っていたところ、与那原教会の牧師がアメリカで二年間勉強したいと言って来た。その間私に彼の教会を見てほしいと頼まれた。しっかりしたメンバーが居るし、私は那覇の事務所にいる時間が多くなったが協力すると言ったので、引き受けた。

教会のメンバーはよく助けてくれて礼拝出席も献金も順調だった。庭で秋分のお月見にススキを生けて、食べたり、歌ったり、踊ったりして沖縄の習慣を楽しむことが出来た。

教会の行事で一番印象深かったことは新しいお墓の祝福とお祝いの式でした。沖縄の墓は大きい、そして『門中』(大家族)にとって非常に大事です。私の教会の役員で、その門中の責任者であった女性が私のところに来て、「私の門中の墓を新しくする。お祝いと祝福を私の教会の牧師にさせていただきますと皆に伝えたら、“ヤソキョウのボンズ(坊主)”がすれば軽いと反対があったが私の意見を通したのでよろしく願います」と言った。

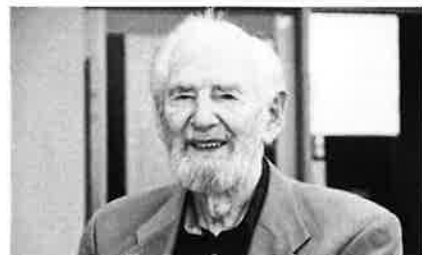
びっくりした!! 困惑した。私はそんな儀式を見たことはないし、仲間の牧師も誰もやったことはない。自分で考えるしかない。キリスト教の祝福式を軸にして約45分で行った。しかも私を含めて、皆、新聞紙一枚に正座していた。終わったら誰も「軽い」と言わなかった。皆、大いに感激して「素晴らしかった、新鮮だった」と言って貰えた。式の後は大切な習慣を皆で楽しんだ。大成功だった。

毎週、教会の誰かの家で家庭集会を持ちました。お茶を飲みながら話しは殆ど戦争体験になった。米軍艦の大砲弾は雨のように降りかかった。暗い洞窟の中で人々は震えあがっていた。ある時は、日本軍人は、泣いている赤ちゃんをお母さんから取り上げて目の前で絞殺した。またある時は、米軍から「撃たないから静かに出てこい!」と日本語で言われたが、出たくても出て行けなかった。一緒にいた日本軍に殺されると分かっていたから。

ある日、私は海岸まで歩いていると不発弾を見つけたので警察に電話したら、「やたらにあるから触らないでおいで」と軽く言われた。しかし時々、子どもはそれを拾って大ケガをしたり、不幸にも亡くなったりした。さらに進むと「ひめゆりの塔」、何万人の遺骨が積んである「魂魄の塔」、ちょっと山を下ると軍の強制で亡くなった「健児の塔」等を見て私は胸が張り裂けそうな気持ちになった。

そんな思いを抱えながら、1969年の夏に私が本土へ戻る三ヶ月前に二つの教団は合同する決心をした。嬉しかった! これまでの長い歴史では、まだまだ問題はありますが方向は決まっていた。

### ウィリアム・エルダー (William Elder)



現在のエルダー氏

1926年生まれ。1948年宣教師としてアメリカから来日、以来70年間日本在住。

1973年東京英語いのちの電話(TELL)設立時の研修に関わり、1980年に関西いのちの電話の研修担当として相談員の育成に尽力し、現在もグループリーダー、スーパーバイザー、養成講座講師など関西いのちの電話の重鎮である。

指導における温かい視点、そのわかりやすさには定評があるが、何より人間性の豊かさ、懐の深さに感銘を受けることが多い。

大阪女学院短期大学名誉教授

## あたたかいご支援ありがとうございます

2018年6月1日～2018年10月31日までに、次の方々から社会福祉法人関西いのちの電話への寄付またはバザーなどへのご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。  
(五十音順 敬称略)

### 【個人】

浅野 敏行	大津 久直	北之坊 皓司	島田 恒	道免 逸子	水谷 恵里子
家田 莊子	大塚 昭男	小村 典子	笑福亭 松枝	永富 美加	宗像 千代子
石原 紘	大塚 伸二	佐々木 良子	菅谷 道子	長野 加代子	森田 和典
今村 良子	大畑 了子	佐治 美知子	杉浦 眞喜子	馬場 美代子	山内 通生
岩本 満	小頭 誠	左藤 章	杉山 邦子	藤原 正巳	山口 健一
上村 あけみ	片山 巖	柴峠 隆士	隅田 保	誉田 俊郎	山田 孝彦
江寄 和子	神谷 尚孝	島田 榮一	瀧 成和	松村 歩美	山本 雅司
大沢 幸子	岸本 彰五	嶋田 佳子	竹村 武男	眞野 和子	脇坂 裕
大谷 遷	木田 和子	嶋田 昇	田辺 昌良	三浦 直之	匿名 10名

### 【団体】

大阪Ⅱゾンタクラブ	株式会社 グリーン空調サービス	日本基督教団 大阪教会初穂会
大阪帝塚山ライオンズクラブ	合資会社 寿屋	日本基督教団 箕面教会
大阪ひごばし法律事務所	コニシ株式会社	日本聖公会石橋聖トマス教会
大阪ロータリークラブ	社会福祉法人 武田塾	融通念沸宗 法蔵寺
大阪YMCA学院	田中医院	

### バザー等協力〈個人〉

植杉 典子	島 弘子	高宮 尚子	西沢 嘉祐
岡本 喜子	住田 幾子	伊達 真理	山本 萬代

### バザー等協力〈団体〉

愛徳カルメル修道会 本部修道院	大阪YMCA本部事務所	株式会社東リ
愛徳カルメル修道会 垂水修道院	大阪北摂YMCA	日吉連合振興町会
江崎グリコ株式会社	大阪南YMCA	みずほ法律事務所
大阪YMCA国際専門学校	サカイ引越センター新大阪支社	TMCAサンホーム

◎他に相談員・理事・評議員・有志などが支えています。

## こんなこともやりました！ あいしました！

2018年6月～11月の活動の一部をご紹介します。

- ・6月18日 大阪府北部地震発生（電話相談一部中止）
- ・6月22日 大阪YMCA学院高等学校「共生社会」講義
- ・7月4日 豊中市メンタルヘルス対策推進会議 専門部会出席
- ・7月12日 豊中市広報誌取材
- ・8月3日 大阪経済大学 学生訪問
- ・6月21日 大阪府立千里星雲高校「いのちの授業」でKAINO劇団公演
- ・8月30日 大阪府被害者支援実務者会議出席
- ・9月4日 台風21号 停電（電話相談一部中止）
- ・10月6日 はりまいのちの電話開局30周年記念式出席
- ・10月18日～10月20日  
いのちの電話相談員全国研修会「にいがた大会」
- ・10月26日 第23回チャリティーコンサート天満敦子ヴァイオリンコンサート
- ・11月3日 創立45周年記念バザー
- ・11月10日 アシア学院 講義
- ・6月12日・10月23日・11月9日・11月22日・11月30日  
豊中市立第一・第五・第十四・第十八・第十七中学校で  
「いのちの授業」KAINO劇団公演

## ……「創立45周年記念バザー」を終えて……

創立45周年記念バザーは11月3日文化の日に晴天の下開催されました。会場の教会の前には開催の1時間以上前からご近所の方がたくさん並んで待っておられ、教会の中ではアクセサリー、バッグ、靴、雑貨、衣類、食器、洗剤等が所狭しと並んでいました。今年は幼稚園の建て替え工事のため中庭が使えず、教会の周りの道路をお借りして子供ゲーム、フランクフルト、チヂミ、豚汁、おでん、焼きそば、ぜんざい、ちらし寿司、本、野菜などの模擬店をたくさんのお客様に楽しんでいただきました。今年のおバザーで特に気が付いたことは幼児を連れて親子や地域の子どもたちがたくさん来場してくださったことです。楽しいバザーを開催でき、寄贈していただいた企業様や参加していただいた皆様方に心から感謝申し上げます。



ゲームに夢中の子どもたち

(バザー委員会 H.O)

相談ボランティア募集中

～あなたも私たちの活動に  
参加しませんか～

## 第55期 電話相談ボランティア養成講座のご案内

募集期日：2019年3月21日(木)必着  
 養成期間：2019年4月～2021年3月(2年間)  
 講座内容：1年目は、1泊研修・1日研修・週1回の講義や実習があります。  
 (毎週の講座は主に木曜日・18:50～20:50)  
 2年目は、インターンとしての実習および各種研修があります。  
 電話：06-6308-6868 FAX：06-6308-6180  
<http://www.kaindnew.com>

\*募集要項は事務局までご請求ください。ホームページからもダウンロードできます。  
 \*ボランティアについてのご質問は、募集期間に限らず随時受け付けています。

 関西いのちの電話 傾聴セミナー&電話相談ボランティア説明会  
 「いのちの電話 あれこれ」

- ◆豊中セミナー 2019年1月29日(火)  
会場：千里文化センター「コラボ」2階カンファレンスセンター(北大阪急行千里中央駅北改札より 徒歩1分)
- ◆梅田セミナー 2019年2月26日(火)  
会場：総合生涯学習センター 第2駅ビル5階 503研修室(JR大阪駅より 徒歩5分)
- ◆十三セミナー 2019年3月12日(火)  
会場：十三・JEC日本研修センター ドルチェ・ヴィーダファーストビル3階(阪急十三駅「西口」より 徒歩8分)

〈各セミナーとも〉 ◆講師：安田 一之 氏 (大阪学院大学名誉教授・臨床心理士)  
 ◆内容：19:00～20:30 傾聴セミナー&ボランティア説明会  
 ◆参加費：500円 ◆定員：30名 定員になり次第締め切ります。  
 申込・問い合わせ先：社会福祉法人 関西いのちの電話  
 事務局 TEL：06-6308-6868 FAX：06-6308-6180 Email：kaind@age.ac

## いのちつながれ大河のように～孤立社会といのちの電話

「第35回いのちの電話相談員全国研修会」に参加して

日本一長い信濃川が満々と水をたたえる新潟市。10月18日～20日までの3日間、いのちの電話相談員全国研修会にいがた大会が開催され、約600名が全国から集いました。

1日目は基調講演と懇親会でした。基調講演第1部は家田 荘子氏「この世に生まれ、生きて、生かされて」、第2部は史佳氏・高橋竹育氏「三味線と生きる～人生の絶望から救ってくれた母の一言～」。第1部では、家田氏のエイズ患者と過ごした話、第2部では、三味線演奏を交えた「鬱から立ち直った親子の語り」に感動しました。懇親会では同じテーブルの方々「ナビダイヤルはどうなの?」「頻回通話者にはどうされている?」の情報交換をしました。2日目は20分科会・ワークショップに参加し、その感想を数人と話し合ったら、どこでも「傾聴」について触れられており、いかに「傾聴」が大切であり難しいかを改めて考えさせられました。3日目はシンポジウム「自殺総合対策大綱いのちの電話」。若年層自殺予防、かかり難い電話、相談員減少・受信件数減、資金減などに対して、いかにしていくかが今後の大きな課題だと思いました。

2年ぶりの開催に参加者の熱い思いがみなぎっているのを感じました。最後は「かけよう心をつなぐ橋」2019年おかやま大会(10/24～26)にバトンタッチされました。(H.F.)



大会3日目「シンポジウム」の風景



## 問いかけることと共感 9 「対話と共感」

私たちの電話相談は、孤独の中にあって、悩み苦しんでいる一人一人に対して、「電話」という手段を用いて、カウンセリング的な対話をすることによって、よい隣人としての適切な援助を与えることが主な目的です。

この目的のポイントは「カウンセリング的な対話」ということです。私たちは臨床心理士のカウンセリングではなく、〈的な〉という但し書き付きで、〈対話をする〉となっています。

この〈対話〉の由来「ダイアログ(dialogue)」はギリシャ語の「dialogos」が語源です。「logos」とは、「言葉」で、「言葉の意味」と言えます。

「dia」は「～を通して」という意味で、「二つ」という意味ではないのです。対話は二人の間だけでなく、何人の間でも可能なものです。対話の精神があれば、一人でも自分自身との対話もあります。

この語源から、人々の間を通して流れている「意味の

流れ」という映像やイメージが生まれてくるのです。そこから何か新たな理解が現れてくる可能性を伝えていきます。この新たな理解は、そもそも関係の出発点には存在しなかったものかもしれません。このように何かの意味を共有することは、「接着剤」や「セメント」のように、人々や社会を互いにくっつける役目を果たしているのです。

かけ手は「問題」を持っているけれども、その人が「問題」の実体なのではなく、その「問題」はその人とその家族などとの相互作用の中から作り出されたものとして聴くのです。その語りには、その人自身が「問題」としている人間関係や人生を貧しくしている関係のあり方が表現されています。

その語りを手がかりに対話を重ね、その人自身が人生の意味を問い直し、その人を縛っている関係に抗えるように、そして本人にとって望ましい未来へ抜け出せるように、手助けをすることが、私たちの活動の目指すところではないでしょうか。

(参考：デヴィッド・ボーム著『ダイアログ』)

(長尾文雄・元大阪女学院大学／短大講師)

関西いのちの電話 第37回公開講座

## 「ママ、死にたいなら死んでもいいよ」

～娘のひと言から私の新しい人生が始まった～

講師 **岸田 ひろ実**

日時：2019年2月2日(土)13:30開演(13:00開場)

場所：大阪YMCA会館2Fホール

大阪市西区土佐堀1-5-6 TEL 06-6441-0893

申込先／関西いのちの電話事務局 TEL06-6308-6868

FAX06-6308-6180 E-mail:kaind@age.ac

お申し込み後、当日受付にて参加協力費(1,000円)をお支払いください。尚、座席に限りがございますのであらかじめご了承ください。  
※当日申し込みの場合、参加協力費は1,200円です。

### プロフィール

1968年大阪市生まれ。知的障害のある長男の出産、夫の突然死を経験した後、2008年に自身も大動脈解離で倒れる。成功率20%以下の手術を乗り越え一命を取り留めるが、後遺症により下半身麻痺となる。約2年間に及ぶりハビリ生活中、絶望を感じて死を決意。娘の励ましがきっかけで、娘が創業メンバーを務める株式会社ミライロに入社。高齢者や障害者への向き合い方「ユニバーサルマナー」の指導を中心に、障害のある子どもの子育てについて等、年間180回以上の講演を実施。



この広報誌は、平成29年12月に実施されたNHK歳末たすけあい配分金を受けて作成したものです。府民(寄付者)のみなさまに感謝いたします。

### 編集後記

今号では、連載記事「問いかけることと共感」「エルダーものがたり」を通して、「対話の大事さ」を感じさせられる。対話者間で、対話を通して浮かび上がる「何か」が共有されることにより、お互いを結び付ける役割があると。

沖縄の人は、長年の「差別」と戦争後の「無視された事」による深い傷を負い、世代によって傷の程度に違いがあると筆者は感じている。昨今の沖縄の状況も、本土の人の無関心による「対話の乏しさ」によって引き起こされているといえるかも。

電話相談員も電話を通してかけ手と「対話」をしているか、常に問い続けなければならない。(H.S)

### 電話相談受信状況(2018年)

受信月	6月	7月	8月	9月	10月
受信件数	2,062件	1,996件	2,076件	1,882件	1,976件
相談員数(延)	491人	515人	532人	500人	497人

### 社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72

TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180

発行人 李清一 編集 広報委員会

ホームページ <http://www.kaindnew.com>